

事業コード	H30-建-継-18			区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	広域河川改修事業			部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	河川改修			班 名	河川・ダム・海岸班 (tel)018-860-2514
路線名等	一級河川 太平川			担当課長名	河川砂防課長 小野 久喜
箇所名	秋田市橋山			担当者名	副主幹(兼) 班長 加賀 良宏
プランとの 関連	政策コード	01	政 策 名	県土の保全と防災力強化	
	施策コード	01	施 策 名	災害に備えた強靱な国土づくり	
	指標コード	01	施策目標(指標)名	中小河川における減災対策の推進	

1. 事業の概要

事業期間	S35～ H38 (67年)	総事業費	114.4 億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	計画延長 L=7,400m 計画高水流量 Q=420m ³ /s (1/20)					
事業の立案 に至る背景	太平川は、秋田市の中心部である(橋山地区～広面地区)を流下し、旭川に合流する河川である。局部的に狭小な箇所があり、それに起因した内水被害が発生するため、下流からの治水安全度の向上を図り、秋田市街地中心部の治水安全度の向上を図るものである。					
事業目的	本事業は、当該区間の河川改修を推進し、洪水氾濫による災害を未然に防止し、住民生活の安定を図るため河川改修事業を推進するものである。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	11,438,100	11,438,100	0		
	経費内訳	工事費	7,504,600	7,504,600	0	
		用補費	2,730,800	2,730,800	0	
		その他	1,202,700	1,202,700	0	
	財源内訳	国庫補助	5,719,050	5,719,050	0	
		県債	5,147,000	5,147,000	0	
		その他	0	0	0	
一般財源		572,050	572,050	0		
事業内容	築堤、護岸、 橋梁工	築堤、護岸、 橋梁工				
事業の進捗 状況	全体計画 H29年度未投資額 進捗率	114.4億円 59.8億円 52.3%				
事業推進上 の課題	太平川沿川に植樹されている桜木の保全をはじめとした、沿川住民の生活環境の保全に配慮した河川改修が求められている。					
関連する計 画等	「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」において、6つの重点戦略とあわせて推進する基本的な政策として「県土の保全と防災力強化」が位置づけられている。					
情勢の変化 及び長期継 続の理由	秋田市街地を流下する河川であるため、現河道を越水した場合には、甚大な浸水被害が予想される。平成14年度に床上浸水被害が発生している事からも改修を促進する必要がある。県全体の予算の制約に加え、計画に対する地元調整が難航したことから、事業期間を延長する必要がある。					
事業効果把 握の手法及 び効果	指 標 名	河川整備率				
	指 標 式	河川改修済み延長/要改修延長				
	指 標 の 種 類	○ 成果指標	● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無	
	目 標 値 a	45.9%		データ等の出典	河川砂防課	
	実 績 値 b	46.0%		把握の時期	平成30年 3月	
達成率 b/a	100.2%					

前回評価結果等	● 選定または継続 ○ 改善 ○ 見直し ○ 保留または中止
	①指摘事項
	特になし
	②指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評 価 点
必 要 性	秋田市街地中心部を流下している河川であるが、河積が非常に狭小なため、常に浸水被害の可能性があり必要性は高い。	30点
緊 急 性	床下及び床上浸水被害が発生しており、避難の目安となる水位である避難判断水位に到達することもあり、緊急性が高い。	10点
有 効 性	現況の流下能力が不足しているため、河道を改修し河積を拡幅することにより治水効果はある。	15点
効 率 性	(費用対効果) 事業の費用便益は1.84であり、効率性は高い。 (コスト削減の取り組み状況) 河川断面を見直し、家屋移転を最小限とし、コスト削減を図り事業促進を図る。	15点
熟 度	(地域の状況) 地域からは、近年に洪水被害が多発していることから、早期完成を要望されている。 (環境対策) 環境に対しては、沿川住民が強い関心を持っているため、河川環境の早期復元が可能なブロックを採用するようにしている。	23点
判 定	ランク (●Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ)	93点
	地元からの要望が強く、「必要性」「有効性」「効率性」等から、事業の重要性は高く評価できるため、整備を継続し早期完成を目指すべき	
総合評価	● 継続 ○ 改善して継続 ○ 見直し ○ 中止	
	事業継続は妥当である	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

コスト削減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

--

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 河川改修事業

事業コード (H30-建-継-18)
箇所名 (一級河川太平川 秋田市榑山)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	想定氾濫区域内の状況	浸水戸数	50戸以上	10	10	4400戸	
			49～10戸	7			
			10戸未満	3			
	浸水面積		60ha以上	10	10	451ha	
			59～10ha	7			
			10ha未満	3			
	重要な公共施設		3施設以上	5	5	城東中学校、太平小学校、城東消防署	
			2～1施設	3			
			なし	0			
	整備計画の策定						
	関係者、関係機関との調整		整備計画策定済み	5	5		
			協議中であるが特段問題ない	3			
策定に着手していないが予定がある			1				
予定なし			0				
計				30	30		
緊急性	災害発生の危険度	改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満	10	7	計画流量420m ³ /sに対し 現況流下能力220m ³ /s 52%	
			40～59%	7			
			60%以上	5			
	秋田県水防計画	重要水防地域	評定基準区分A	5	3	H30水防計画書より区分B	
			評定基準区分B	3			
計				15	10		
有効性	河川整備の有効性						
	安全度		災害防止等効果が発現する	7	7		
			災害防止効果は現状と変わらない	0			
	親水性		安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	5	緑化に配慮した護岸 高水敷整備	
			親水性は現状と変わらない	0			
	地域開発の状況		都市計画区域の存する地域	3	3	都市計画区域	
地域開発の計画がある			1				
計				15	15		
効率性	事業の投資効果						
	費用便益比 (B/C)		1.0以上	5	5	1.84	
			1.0未満	0			
	事業実施コストの縮減	該当項目数	3項目以上	5	5	再生資材(砕石)の使用 仮設資材の再利用 家屋移転の少ない河道計画	
			2項目	3			
			1項目	1			
			なし	0			
	当初計画との比較	当初計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加	5	5		
10%以上30%未満の増加			3				
30%以上の増加			0				
計				15	15		
熟度	地元との合意形成の状況						
	地域住民の事業実施の意向		意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5		
			意向が強く要件の同意を概ね得ている	3			
			意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	1			
	市町村の参画		積極的に参画し要望書等の提出がある	5	5	要望書H30.8 秋田市	
			参画している	3			
			参画していない	0			
	事業の進捗状況	進捗率(事業費)	8割以上完了	10	8	(H29)59.8/(計画)114.4 =52.3%	
			5割以上完了	8			
			1割以上完了	5			
1割未満			2				
環境との調和への配慮状況	環境保全への配慮	システムでの環境配慮事項が3事項以上	5	5	自然環境に配慮した護岸計画 排出ガス対策型車両や機械の採用 法面等の緑化の実施等		
		システムでの環境配慮事項が1～2事項	3				
		システムでの環境配慮事項がない	0				
計				25	23		
合計				100	93		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		